

しむの♡エツ子な  
悩みを解決してくださいっ



DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

とある夜

んっ…  
あぁッ…

ロズワール様あ…っ

この声は…  
誰…なの？

カッ  
カッ  
カッ  
カッ

んっ…

カッ  
カッ  
カッ  
カッ

ここが良いのか  
なあくらあ？

あ…んっ  
そこ、気持ちっ…

カッ  
カッ  
カッ  
カッ



ロズワール様も  
姉様も、とても…



これは…  
一体何をして  
いるのでしょうか…



あやあやあやあや

よおレム!  
こんな夜中に何してん…



ちよつといいですか!

うおっ



なっ!

熱でもあるのか?  
ほんなら俺の  
部屋で…



ははは、  
すまんすまん  
ん?それよりレム…  
なんだか顔が赤くないか?

す、スバルくんが  
急に話しかける  
からです!



そ、そんなに  
驚かれるとへこむぜ  
レムりくん



ど、どうしたんだよ  
いきなり

レムらしくもない

うるさいです。



—ということが  
あったんです

なるほど…

かくかくしかじか

なっ  
なんだ!?

スバルくん!

今から言うことは  
他言無用でお願い  
します!  
もし漏らした場合は  
命はないものと  
思ってください

おっ  
おう…!



そこにスバルくんが  
来たというわけ  
なんです

やべえ…

やべえやべえやべえやべええええ!

何言ってんだよこのメイド様は!!!  
ラムちーとロズっちが裸で抱き合っ  
て気持ちよさそうにしてた?  
あれは一体どういったことなんです  
か、だとお?  
はあああああああ?  
俺が聞きたいよ!二人ってそんな  
関係だったの?  
いやそんなことはこの際どう  
でもいい!  
なんで知らないの?(大事なこ  
となんで二回言いました)

それセツ〇スですから!



ここで紳士的な答えを説明し  
好感度を上げるんだ……っ  
そうだ、逆にチャンスと考えよう  
ここは好感度を上げるチャンス！

よしッ やってやるぜえ！  
この難易度SSSクラスの  
ミッションをよおお  
おおおおおお

スバルくん  
……？



くっそ……どう説明すればいい  
心頭滅却心頭滅却……  
考えろ、考えるんだ  
ナツキ・スバル……！



今まで俺はいくつの  
修羅場をくぐって  
きたと思っただ……！  
(死んでるけど)

そう、今日の俺は  
阿修羅をも凌駕す……

スバルくんツ！！

お、おう  
なんだどうした？



あの……  
ごご相談がありまして……  
先ほどから、その……  
む、ムズムズするんです

この辺りが……

……  
!?



な、何を言い出し…

よ、よし！  
俺が確認しよう

いや待って待って  
レムが困ってるんだ  
それに答えるのが  
男ってもんだろ！

えっ！！  
どっ…どっ触らして  
してるんですか！

スバルくんは変態ですが  
ここまでドイとは  
思いませんでした…！

それ地味に  
傷つくんだけど…



だったら…

ス、  
スバルくん？



レム！

はっ  
はっ！！

ムズムズするんだろ？  
治してほしいんだろ？

それは…  
そうですけど…



あっあの  
スバルくんっ  
そんなとこ…  
汚いです…

治すなんて言っちゃまったが  
ただのセックスだなんて  
口が裂けても言えないぜ…

……

レムの体に汚いとこなんて  
あるわけないじゃないか

そういう問題では…



んっ…

い、痛くないか…?

痛くは…ない…  
です…っ

あぁっ

レムが人前でこんな顔する  
とは…この声、息づかいまで  
全部俺が独り占めできるん  
だよな

はぁ

い…

言いたくありませんっ

はぁ♡

はぁ♡  
はぁ♡  
はぁ♡

レムのこころ、こんなに  
濡れてるぜ  
気持ちいいのか？

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ





レムっ  
レムっ...

あっ...んっ  
スパ...ルくんっ



い、今治してやるからな...!

こうなつたら意地でも最後まで持ち込んでやるぜ!



あああああ!!!かわええええええええええ



そ、そんな...っ  
ため...です

すまん、レム  
少し荒治療に  
なるかもしれん

何を言ってるんです...か

レムのおっぱい真っ白でやわらかくて...  
すごく、良い匂いがするぜ...っ



なんで  
わたしが  
ごっこんな...  
辱めさ...

ほ、本当に...  
治る...です...あっ

い、一体何をやる気  
ですか...!!

ーって  
スパルくん

大丈夫だ  
俺を信じろって!  
俺がレムのムズムズを  
すつきり治してやるからさ!

は...は...

ア  
ア  
ア...

ム  
ム  
ム...



ちよつと痛いかも  
しれないけど  
我慢してくれよ

これで治る  
はず...だ!

くっ...嫌がつておきながらの  
この吸いつき具合...  
さすがSSS級...!

ちよつとスバルく

えいめえ  
えいええ



な、何を言っ  
てるんですか

この太くて...  
おぞましい...  
モノを早く抜いて  
...くださいっ

だ、大丈夫！  
みんな最初はこうなんだ

も、もう少ししたら  
体が楽に…気持ちよくなってくるから、な！

俺は何を言ってるんだ

ははひっ

わかりました…  
スパルくんっ

んっ♡

でもレムもまんざらでもない  
みたいだし、このまま…

とはいえ…  
こんな純粋な女の子を  
騙してセックスしてる  
なんて最低だぜ…





イけるとこまでいって  
やろうじやねえかああ!!

えっ  
す、スバルくん!!

この  
体勢は恥ずかしい  
んですが...

スバルくん  
...?



こ、こんなかっこ...

いっ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ

レムツ治療完了まで  
あと少しだ...ツ



もつと自分に  
素直になるんだ  
レム!

気持ちよさを  
体全体で感じるんだ

あ  
あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ  
あ



……くだ……さい……い……

……でしたら……

自分に……素直……に……ですか……

はへ……？  
今なんて？

そうだ、レム！  
これはレムのための  
治療なんだぞ……！



……ください……  
もっとレムのこと  
いっぱい突いてください……

スバルくんっ♡

キタアアアア……





あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま

ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん

もうどうにでもなりやがれ…!!

ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん





# Re:ゼロから始める日常生活

皆 「『王様ゲームっ！？』」

スバル 「おうっ！  
俺の国で男女が仲良くなるために行っていた大人気レクリエーションだ！  
たまにはパーッと遊ぼうじゃないか！」

ベアトリス 「ふんっ。くだらないかしら」

ラム 「くだらないわね」

レム 「さすがスバル君！」

スバル 「お前ら…レムありがとう！」

エミリア 「ねえスバル。  
その…王様ゲーム？って言うのはどんなことをするの？」

スバル 「さすが愛しのエミリアたんー！いい質問だ！美しい！」

エミリア 「もうっ！スバル茶化さないでっ！」

スバル 「ははは では、ルール説明をしようっ！」  
~~~~~ルール説明~~~~~

スバル 「ってことだ！わかったかな？」

エミリア 「うんっ！指名された人は、王様からの命令に  
絶対に従わなくちゃダメってことね！楽しそうかもっ！」

ラム 「レムレム、バルスはきっと王様になってイヤらしい命令をするのよ。  
汚らわしい。」

レム 「スバル君になら…!!!」

ラム 「…」

ベアトリス 「なんでベティまで巻き込まれなくちゃいけないのかしら！」

スバル 「そんなこと言うなよベア子ー」

ベアトリス 「フンッ！」

バック 「面白そうじゃないかスバル！」

ベアトリス 「!!! (ニーチャ参加だどっ!!!)」

スバル 「ではいっちょやってみますかー！  
ち・な・み・にー！王様の命令を無視したものは、  
明日お風呂の大掃除をやっていたきまーす！」

エミリア 「はいー！」♪♪♪

レム 「わかりました！」

ラム 「まっ息抜きくらいにはなるわね」

バック 「かかって来いスバルー！」

ベアトリス (ニーチャと…へっへっへ)

スバル 「おいっベア子。顔がにやけてるぞ」

ベアトリス 「なっ！失礼しちゃうかしらっ！」

スバル 「じゃー記念すべき第一回目！いくぞー！皆さん！棒を引いたかな？  
では…王様だーれだっ！」

バック 「おっ僕が王様だね！」

ベアトリス 「きゃー！ニーチャ！」

エミリア 「さっバック命令してっ！」

スバル 「さすがバック！やるねー！でっ何を命令するんだいバック様は？  
あとエミリアたんその発言だけだとちょっと危ない発言のような…」

バック 「どうしようかなーん〜」

スバル 「無らしますねバックさん」

エミリア 「…」ワクワク

レム 「…」ドキドキ

ベアトリス 「…」カモンカモンカモン！

ラム 「…」

バック 「じゃ〜あ、1番のひとが〜」

スバル 「おっ俺だな！」

レム 「！」

バック 「王様の肩を揉むっ！」

スバル 「ははー！バック様！承知いたしました！」  
モミモミ

スバル 「揉み加減はいかがでしょうか？」

バック 「苦しゅうない！」

ベアトリス 「きいー！さっさと次やるかしらっ！」

スバル 「おっ！やる気できたなベア子！」  
「では、二回目…王様だーれだっ！」

バック 「僕だよっ！」 えっへん！

スバル 「連続…だとっ！」

エミリア 「さあ！命令してバック！ちなみに私は3番だよ！」

スバル 「ちょ！番号言っちゃだめでしょエミリアたんっ！」

レム 「…」ドキドキ

バック 「じゃーね…2番の人がー」

ベアトリス 「っ」！！！！！！

バック 「王様の…」

ベアトリス 「肩を揉めばいいのかしらっ！それともあ・つ・い・べ・え・え・ぜをおおお」

バック 「前でスクワット100回！」

ベアトリス 「……」

ラム 「…フッ」

スバル 「はっはっは」

ベアトリス 「なに笑ってるかしらっ！フンッフンッ！」 ｽｸｯｯ中

エミリア 「がんばって！」

ラム 「くっ…」 ｸﾞｲｸﾞｲｸﾞｲ

レム 「スバル君楽しそう。 うふふ」

スバル 「では気を取り直して3回目！いってみましょう！王様だーれだ？」

レム 「レムですっ！」

スバル 「おっ！レムかっ！」

レム 「では、2番のお方が…」

スバル 「おっまた俺か」

レム 「!(ここで王様と抱擁と言えば…スバルくと…)」  
「おっ……(王様と…)」  
「4番のお方と握手をしてくださいっ！」

ラム 「…」

スバル 「はははレムらしいな。でっ4番はだれなんだ？」

ベアトリス 「私かしらっ！フンッフンッ！」 ｽｸｯｯ中  
~~~~~回数に進み~~~~~

スバル 「4番が王様の人の好きなのところを3つ言う！」

ラム 「ないわ」「間違いなくないわ」「全くにないわ」

スバル 「ラムうろうろう！」

レム 「スバルくん！レムなら1000個は言えますよ！」 ｸﾞﾝ!

~~~~~

ベアトリス 「王様カシラー————！！！！」 ｷﾀﾞﾀﾞﾀﾞﾀﾞ!  
「ニーチャが王様に熱いベエーゼを！！！！！」

スバル 「番号じゃないから却下なー」

ベアトリス 「Noooooooooo!!!!!!!」  
~~~~~

ラム 「3番が庭を10週よ。5分以内で」

スバル 「俺か…って無理だろっ！」

ラム 「早くしなさい。4分58…57…」

スバル 「ちくしょーいってきまー―――す!!!」

レム 「スバル君がんばって!」

バック 「久々に僕だね!じゃーねー…4番がー」

ベアトリス「!!!!!!!」

バック 「スクワット100回!」

ラム (´\_ゝ´)ﾌｯ

ベアトリス「ニーチャ…フンツフンツ!」スクワット開始

レム 「王s……3番のお方が犬のモノマネをお願いします。」

ベアトリス「ワンツ…かしら」

スバル 「ちょw」

ラム 「あっはははは」ハイハイ

レム 「ベアトリス様かわいいですっ!」

ラム 「1番庭30週」

スバル 「また俺かよー!」

~~~~~お気づきだろうか?~~~~~

スバル ……  
ラム ……  
レム ……  
ベアトリス ……  
バック ……

エミリア (ノD`)/ｼｸｼｸ  
「いいもん…私なんて…どうせ空気ヒロインなんだから…」

スバル 「エミリアたん。つっ次は必ず王様になれるって!」

エミリア 「本当?」

スバル 「おっおう!」

エミリア 「絶対?」

スバル 「おう!」

エミリア 「グスッ…がんばる!」

スバル 「よしっ!その意気だエミリアたん!次行くぞ!」

エミリア 「さー来なさい!私の出番!」

スバル 「王様だーれ…(頼むエミリアになってくれ…)」

「……あつ俺だ」

エミリア (´ ; ω ; ´)ﾌｯ  
「もうスバルなんか大きなあああーい!」

スバル 「エミリアたあああああーん!」ハイハイ

ラム 「凄いい勢いで走って行ってしまったわね」

バック 「じゃっ僕も抜けるねっ!じゃーねー!」

スバル 「えっ!あいつちまった…」

ベアトリス「ベティもニーチャがないのなら帰るかしら」 ｸﾞﾈｸﾞﾈ

スバル 「三人になっちまったしお開きにするか!」

ラム 「いいえ。もう一回やるわよ」

スバル 「三人でか?」

ラム 「そうよ」

スバル 「俺は別にいいけど。レム大丈夫か?」

レム 「はい!レムはスバルさんと一緒ならいつまででも!」

スバル 「そうか!じゃーやりますか!  
では、本日も最終ゲームを行いたいとおもいま

ラム 「ラムから引かせてもらうわ」

スバル 「おい、まだ俺がしゃべってるだろーが…  
全く!だがな俺の国では昔から伝わる格言があるんだよ!  
残り物には福があ」

ラム 「王様は私よ」

スバル 「ちくしょおおおおおお!!!」

ラム 「バルスとレムに命令するわ」

スバル 「おいおい、確かにもう俺たちしかいねーけど番号にしてくれよな」

ラム 「3番と5番よ」

スバル 「!!!」

ラム 「二人で」

スバル 「ちょっと待ってくれ!なんで見もしないでそんな的確に俺たちの番号がっ  
…!!!まさかラム!お前!!!千里眼を」

ラム 「気づくのが遅すぎるんじゃないバルス」

スバル 「ずるいぞラム!こんな不正だ不正!ノーカンだ!」

ラム 「何を言っているの?千里眼を使ってはいけないと言われてはいないわ  
さーひれ伏しなさいバルス!」

スバル 「くっ…」

ラム 「ラムが命じる!バルス!レムっ!」

スバル (たのむ…足をなめるとかそんなのは勘弁してくれ…)

レム 「はい!」ドキドキ

ラム 「今晚!」

スバル (今晚…何をさせられるんだ…あーこえー)

ラム 「二人で同じベッドで一緒に寝なさい。」

スバル 「よしっ!余裕じゃねーか……ん?」

レム 「…///」

スバル 「はあああああああ!!!!!!」

ラム 「全裸でね」 ｺﾞｼﾞ ｺﾞｼﾞ

スバル 「はあああああああ!!!!!!」

ラム 「うるさいわバルス」

スバル 「ちょっとまってちよってまっていやいやいやおかしいだろ!」

ラム 「なにがよ」

スバル 「大事な妹なんだからこんなことさしちやだめだろ!」

ラム 「それはラムが決めること。王様の命令は絶対よ  
言いだしっぺがルールを破る気?」

スバル 「けどよお…レム?」

レム 「レムはスバルさんがイヤでないのですたら///」

スバル 「!?」

~~~~~その夜~~~~~

コンコン

スバル 「おっ俺だけど」

レム 「はい…どうぞ入ってください」

スバル 「失礼するぞ」  
(おいおいおい。ホントにこのまま一緒に…)

レム 「お待ちしました///」

スバル 「レム…」

レム 「少し狭いですが…こちらにどうぞ」

スバル 「おっおう」

ドキドキ

ドキドキ

レム 「あの…すばる君…」

スバル 「なっなんだ?」

レム 「……とても申し上げにくいのですが…  
ここで話は終わりです」

~~~~~おわり~~~~~



あとがき

はじめまして、魔太郎です。今回はリゼロのレム本ということで、いかがだったでしょうか。すごくレムが描きたかったのが非常に満足しています。ちょうど先日、例の18話の放送がありまして改めてスバルくんはひどい男だなあと思いました。あのレムを、即答で、振るとは…ちょっと同じ人間とは思えないです。

今回の話を描くにあたって、あえてテレる前のレムを描きました。個人的にあの最初のつつんしてるレムがかわいいなあと。

そして今回初めて、小説(SS)をつけてみました。

この本の脚本や下塗りなど手伝っていただいている方で、いつも最初に本の流れをつくるとき簡単なSSを書いてもらうのですが、その内容が面白かった(どうでもいい日常話まで書いてきた)ので是非本に掲載していいか提案したところ、快く許可をいただいたので載せさせていただきます。楽しんでいただけますと幸いです。

後ろの鬼レムはグッズ用にと描いてみたものの、怖いのでやめました。

この度はこの本をお手にとっていただき、誠にありがとうございました！次回作も頑張ります！

魔太郎



レムのエッチな  
悩みを解決してくださいっ

COMIC MARKET 90  
2016.8.14 サークル：魔太郎

HP:<http://mataro777.wix.com/mataroweb>  
TWITTER:MATARO\_777

PRINTED BY 大陽出版 様

レムのエツ子な  
悩みを解決してくださいっ